TUFS Cinema 日系アメリカ人社会の歴史映画特集







TUFS Cinema とは……

東京外国語大学TUFS Cinemaは、映画を通じ、世界の諸地域における社会・歴史・文化の理解を深めることを目的として行っています。

第二次世界大戦の前後に日系アメリカ人社会が経験した強制退去と強制収容所への収容、そこからの釈放後の強制同化を経て、権利と補償を求める運動までを3篇の短編映画でたどります。
そして、立場や世代を超えて歴史的記憶をどのように継承してゆくことができるのかを考えます。

上映作品①
オレンジ・ストーリー（18分）
上映作品②
再定住：シカゴ物語（17分）
上映作品③
十分であること：補償と向き合う（22分）

トークセッションは、日本語で行う予定ですが、英語での質問も受付します。

上映日時 2026年
12月5日
14:00上映開始（開場13:40, 終了予定16:30）【土】

場所 東京外国語大学
アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール
（東京都府中市朝日町3-11-1、西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分）

プログラム
- 短編映画3作品の本編上映（合計57分）
  休憩10分
- 上映後解説／トーク（60分：質疑応答を含む）
  松平 けあき（東京外国語大学）
  松本 ジェイソン
  （フル・スペクトラム・フィーチャーズ、オンライン参加）
  通訳：坂本 有紀（コヨーテ・サン・プロダクション）
  司会：大石 高典（東京外国語大学）

入場無料
事前登録者 ▶▶▶ 優先
https://sanda.tufs.ac.jp/event/tc261205form/

※事前登録で優先入場をご利用いただけます。上記のQRコードから事前にご登録のうえ、当日は受付の際、事前登録完了メールをご提示ください。なお、事前登録はWeb限定となります。

[お問い合わせ]
東京外国語大学 広報・社会連携課
（TUFS Cinema担当）
TEL 042-330-5441
平日9:00-17:00（12:00-13:00は除く）
Email tufscinema@tufs.ac.jp

詳細は TUFS Cinema ウェブサイトにて
https://www.tufs.ac.jp/tufscinema/

共催 東京外国語大学TUFS Cinema ◇ COYOTE SUN PRODUCTIONS , LLC
東京外国語大学大学院総合国際学研究科「公共圏における歴史（HIPS）」プログラム
TUFSフィールドサイエンスコモンズ（TUFiSCo）◇ 東京外国語大学 大学の世界展開力強化事業(米国等) ―太平洋を『架橋』するブリッジ・パーソン養成プログラム(TP-Bridge)―
協力 東京外国語大学多言語多文化共生センター

上映日
2026年12月5日〈土〉14:00上映開始（13:40開場、16:30終了予定）

日系アメリカ人社会の歴史映画特集



① オレンジ・ストーリー

監督：エリカ・ストリート
受賞歴：2019年 全米公共史学会（NCPH）優秀公共史プロジェクト賞　特別言及
2016年／アメリカ／18分／英語／日本語字幕／原題 *The Orange Story*

あらすじ
太平洋岸北西部で小さな食料品店を営む大島コウジ。真珠湾攻撃と大統領令9066号の署名を受け、突然すべてを手放し、一時収容施設へ出頭するよう命じられる。強制退去の日、移送されるコウジが直面した差別と苦悩を描く。



② 再定住：シカゴ物語

監督：東谷麗奈
受賞歴：2025年 日本映像制作協会 クリエイティブ・エクセレンス賞 受賞
2023年／アメリカ／17分／英語／日本語字幕／原題 *Resettlement: Chicago Story*

あらすじ
強制収容所から釈放され、見知らぬ土地シカゴで新しい生活を築く15才のメアリーと家族。クラスメイトからの偏見や家族が直面する困難を通して、これまであまり語られてこなかった強制収容所後の「再定住」の歴史を描く。



③ 十分であること：補償と向き合う

監督：ブライアン・ティー
2026年／アメリカ／22分／英語／日本語字幕／原題 *Enough: Reckoning with Redress*

あらすじ
1981年のシカゴ公聴会。第二次世界大戦中の強制収容を生き延びた日系アメリカ人たちが、何十年にもわたる沈黙を破り、自らに何が行われたのかを公の場で証言する。アメリカ政府から謝罪と補償を勝ち取るまでの歩みを描く。

本作について
第二次世界大戦中、アメリカ政府によって強制収容された日系アメリカ人の経験と、その後の世代に受け継がれる記憶を描いた短編映画三部作。
『The Orange Story』（2016年、18分）は、強制退去命令によって食料品店も財産も手放さざるを得なくなった日系人男性の苦悩を描く。
『Resettlement: Chicago Story』（2023年、17分）は、戦後のシカゴでクリーニング店を営みながら生活再建に苦闘する日系人家族の姿を追う。『ENOUGH』（2026年、22分）は、1980年代の補償要求運動を背景に、証言を決意する弁護士の葛藤を通じて、歴史的不正義と向き合う意味を問う。
三作品は、強制収容、戦後の再定住、名誉回復への闘いを個人の視点から描き、世代を超えて継承されるトラウマと記憶、そして正義と和解の可能性を問いかける。

上映後解説／トーク

松平 けあき（東京外国語大学 世界言語社会教育センター 特任助教）
松本 ジェイソン（フル・スペクトラム・フィーチャーズ、オンライン参加）
通訳：坂本 有紀（コヨーテ・サン・プロダクション）
司会：大石 高典（東京外国語大学 大学院総合国際学研究院 准教授）

会場
東京外国語大学 アゴラ・グローバル プロメテウス・ホール
（東京都府中市朝日町3-11-1）

交通アクセス



◆JR中央線「武蔵境」駅のりかえ 西武多摩川線「多磨」駅下車 徒歩5分（ＪＲ新宿駅から約40分）
◆京王電鉄「飛田給」駅北口より多磨駅行き京王バスにて約10分「東京外国語大学前」下車

お問い合わせ
東京外国語大学 広報・社会連携課（TUFS Cinema担当）
TEL　042-330-5441 平日9:00〜17:00（12:00〜13:00は除く）
Email　tufscinema@tufs.ac.jp
Facebook @tufscinema.pr　X(Twitter) @tufscinema

上映会の詳細はこちら
https://www.tufs.ac.jp/event/2026/261205_c01.html